



平成 15 年 3 月 20 日

各位

会社名 株式会社レイ
代表者の役職氏名 代表取締役社長 分部 日出男
(登録銘柄) コード番号 4317)
問合せ先 取締役 川崎 富士朗
連絡先 コーポレートプランニング室
(TEL 03-5410-4057)

**平成 15 年 2 月期通期(連結・単独)業績予想の修正及び
平成 16 年 2 月期通期(連結・単独)業績予想について**

平成 15 年 2 月期(平成 14 年 3 月 1 日～平成 15 年 2 月 28 日)の業績予想について、平成 14 年 10 月 15 日付当社「平成 15 年 2 月期 中間決算短信(連結)」及び同日付当社「平成 15 年 2 月期 個別中間財務諸表の概要」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたすとともに、平成 16 年 2 月期通期(連結・単独)の業績見込をお知らせいたします。

1. 平成 15 年 2 月期 連結業績予想の修正等

(1) 通期(平成 14 年 3 月 1 日～平成 15 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
前回予想(A)	7,581	228	114
今回修正(B)	6,762	124	35
増減額(B-A)	819	104	79
増減率	10.8%	45.6%	69.3%

(2) 修正理由

売上高につきましては、日本経済の厳しい環境が下半期も続き、特に当グループが得意とする演出系の受注が減ったことや機材販売につきましても不調となりました。8 月末に編集スタジオをリニューアルし、受注状況の改善を試みましたが、大勢を挽回するにはいたらず、67 億 62 百万円と前回予想比 8 億 19 百万円の減少となる見込であります。

経常利益につきましては、上記の受注状況により演出機材の稼働率の悪化や機材販売の低下が響き、124 百万円(前回予想比：1 億 4 百万円の減少)となる見込であります。

当期純利益につきましては、上記の理由により、35 百万円(前回予想比：79 百万円の減少)となる見込であります。

(3) ご参考：前期の実績(平成 13 年 3 月 1 日～平成 14 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益
通 期(13/3～14/2)	8,184	763	429

2. 平成 15 年 2 月期 単独業績予想の修正等

(1) 通期(平成 14 年 3 月 1 日～平成 15 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり期末配当金
前回予想(A)	5,855	205	100	5 円 00 銭
今回修正(B)	5,426	77	16	5 円 00 銭
増減額(B-A)	429	128	84	-
増減率	7.3%	62.4%	84.0%	-

(2) 修正理由

売上高につきましては、連結業績と同様、当グループが得意とする演出系の受注が減ったことや機材販売につきましても不調となりました。8 月末に編集スタジオをリニューアルし、受注状況の改善を試みましたが、大勢を挽回するにはいたらず、54 億 26 百万円と前回予想比 4 億 29 百万円の減少となる見込であります。

経常利益につきましては、上記の受注状況により演出機材の稼働率の悪化や機材販売の低下が響き、77 百万円(前回予想比：1 億 28 百万円の減少)となる見込であります。

当期純利益につきましては、上記の理由により、16 百万円(前回予想比：84 百万円の減少)となる見込であります。

(3) 配当について

弊社といたしましては、今後とも企業基盤の確立を念頭におき、内部留保に配慮しつつも配当性向を意識することで業績に応じた適正な利益配分をおこなうことを基本方針としておりますが、可能な限り株主の皆様へ安定配当をしていく所存でございます。今回につきましては、業績予想は上記のとおりでございますが、前年度公開時の内部留保や企業基盤の状況をかんがみて、期末配当金を前回予想いたしました 5 円 00 銭をもって平成 15 年 5 月下旬に開催の第 22 期定時株主総会にてご提案申し上げる所存でございます。

(4)ご参考：前期の実績(平成 13 年 3 月 1 日～平成 14 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり配当金
通 期(13/3～14/2)	6,987	638	356	10 円 00 銭

3. 平成 16 年 2 月期通期(連結・単独)業績予想(平成 15 年 3 月 1 日～平成 16 年 2 月 28 日)

(単位：百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1 株当たり年間配当金
連結	7,081	176	73	
単独	5,584	96	47	5 円 00 銭

市場環境は、平成 16 年 2 月期におきましても、国際環境の動向も有り、引き続き厳しい状況が続くものと思われます。そのため、現状の取引市場を再度詳しく分析し、予算作成上にあたり、持続して安定的受注が見込める部分 平成 16 年 2 月期に予測される特需部分 各事業が拡大成長をはかる部分の中身を再検討し、の拡大部分がなくても利益が出せるよう、役員報酬をはじめとする人件費の見直し等の経費の削減の徹底化をおこないました。また組織面におきましても、権限と責任の明確化をはかるミッション制度の採用による攻めの営業体質の徹底化をはかりました。以上を踏まえまして、上記の通期業績予想となっております。

以上